

復員廳第二復員局公報

第一〇九號

昭和二十二年五月五日(月)

第二復員局文書課

○令 達

復二第三一八號

復員廳分課規程中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年四月三十日

復員廳總裁

十八條表中佐世保地方復員局ノ項上陸地連絡所ノ欄ヲ削ル。

(參照 昭和二十一年六月二十日第二復員局公報)

復二第三一九號

復員廳地方復員局定員表中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年四月三十日

復員廳總裁

佐世保地方復員局ノ部中博多上陸地連絡所ノ項ヲ削リ合計ノ項中「六八五」ヲ「六七五」ニ、「一五七六」ヲ「一五六一」ニ、「四八一三」ヲ「四八〇一」ニ改メル。

(參照 二月八日第二復員局公報)

○通 牒

二復第一五三號

昭和二十二年五月二日

復員廳第二復員局總務部長

各廳長殿

元特別輸送艦海第十四號乗員ニタイスル謝辭ノ件通知

首題ノ件ニ關シ船運會神戸支部船員部長ヨリ左ノヨウナ謝辭ガアツタ。

神船海發第一〇〇號

昭和二十二年四月六日

船運會神戸支部船員部長 濱 慶房

第二復員局總務部長殿

第二次「アンラ」船團護衛艦海第十四號艦長
以下乗組員ニタイスル感謝ノ件

首題ノ件ニ關シ「アンラ」第二次「アンラ」船團(DZB)ハ昭和二十一年十二月二十一日神戸ヲ出港シテ翌年二月二十六日上海到着ニ至ルマデ冬季ノモンズン時季最モ至難ニシテ危險多キ海上ヲ無事東支那海橫斷ニ成功シマシタコトハ實ニ慶賀ノ至リデアリマス。

社 松

復員廳第二復員局公報 第一〇九號 昭和二十二年五月五日

一〇五

0550

是レ備ニ此ノ種小現船ノ護衛指揮ニ特別ノ考慮ト理解ヲ持ツテ
回航ノ任ニ當ラレタル海第十四號艦長以下乗組諸子ノ異常ナル
御努力ト優秀ナル技能ト俟ツ處多大ニシテ私達ノ齊シク敬意ト
感謝ノ意ヲ表スル次第デ御座イマス。

尙上海ヨリノ歸途回航員一同本艦ニ便乗中モ多大ノ便宜ヲ與ヘ
テ和氣満々裡ニ神戸ニ歸着スルコトガ出来マシテ當會回航員
代表ヨリ絶大ナル讃詞ヲ以テ感謝ノ意ヲ表シテ參リ當方トシテ
モ感謝ニ堪エヌ次第ニテ貴職ニ於テ同艦々長以下乗組員一同ニ
御傳達下サルヨウ御依頼申上ゲマス。

○難 歌

○郵便物發送先

特別保管艦一樺 東舞鶴郵便局氣付

0551

復員廳第二復員局公報

第一一〇號



第二復員局文書課

昭和二十二年五月九日

○通牒

二復主第七號ノ一九

昭和二十二年四月十八日

第二復員局經理部長

業務

關係各廳長殿

所得稅ノ取扱ニ關スル件通牒

今般法律第二十七號ヲ以ツテ所得稅法改正サレ本月一日ヨリ施行サルコトトナツタガ第二復員部内ニ勤務スル者ニツイテハ左記了承ノ上處理サレタイ。

記

一 納稅義務者

内地ニアル第二復員部内各廳ニ勤務スル者(外地又ハ外國ニ派遣サレタ特別輸送艦乗員ヲ含ム)

(註) 所得稅法(以下法ト謂フ)第一條、法附則第二條參照

外地又ハ外國ニアル者ハ除外サレル。

所得稅法改正法律第二十七號ハ昭和二十二年三月三十

一日附官報號外(二)參照

二 課稅所得

(イ) 給與所得

俸給、給料(報酬ヲ含ム以下同ジ)、薪定加給、勞務手當、掃海手當、臨時家族手當及ビ臨時勤務地手當

(ロ) 退職所得

退職手當及ビ掃海慰勞金

(註) 法第九條參照

三 控除

(イ) 給與所得控除

給與所得ハソノ年中ノ收入金額カラソノ十分ノ二ニ相當スル金額(ソノ金額ガ六千圓ヲ超エルトキハ六千圓)及ビ四千八百圓ヲ控除スル。

(ロ) 退職所得控除

退職所得ハソノ年中ノ收入金額カラソノ十分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除スル。
ソノ年中ノ給與所得カラ(イ)ノ四千八百圓ヲ控除シテ不足額ガアルトキハ退職所得(十分ノ五ヲ控除シタ金額)カラソノ不足額ヲ控除スル。

(ハ) 扶養親族控除

(註) 法第九條、第十二條參照

第一號ニ該當スル者ト生計ヲ一ニスル配偶者及ビ三親等内ノ親族ニ年令滿十九歳未滿若シクハ年令六十一歳以上又ハ

復員廳第二復員局公報 第一一〇號

昭和二十二年五月九日

一〇七

不具癡疾ノ者ハ一人ニツイテ年額二百四十圓ヲ所得稅額カラ控除スル。

同居親族デアル配偶者ノ双方ガ納稅義務者デアル場合ハ所得金額ノ多額デアル一方ハ扶養親族カラコレヲ除クモノトスル。

配偶者及ビ三親等ノ親族デ同居親族トシテ生計ヲ一ニスルモノノ範圍ハ廳長必要ニ應ジ本人ヨリ米穀通帳又ハ金融手帳等ヲ提示セシメテコレヲ認定スルモノトスル。

(註) 法第八條、第十四條、所得稅法施行規則(以下規則ト謂フ) 第五條、第六條參照

四 申告

(イ) 確定申告

ソノ年中ニオケル給與所得及ビ退職所得ノ收入金額(退職所得ニツイテハ收入金額ノ十分ノ五ニ相當スル金額)ノ合計金額ガ三萬圓ヲ超エ又ハ他ノ所得ノ金額ガ五百圓以上ノ場合ハ翌年一月三十一日迄ニ確定申告書ヲ納稅地ノ所轄稅務署長ニ提出スルモノトスル。

(註) 法第二十六條、規則第二十三條參照

ソノ年中ノ給與所得及ビ退職所得ノ收入金額(退職所得ニツイテハ收入金額ノ十分ノ五)ノ合計額ガ六萬圓以下デ且ツソノ他ノ所得ノ金額ガ千圓ニ滿タナイトキハ豫定申告書ハ提出ヲ要シナイカラ本通牒ニハ豫定申告ヲ省略スル(法第二十一條乃至第二十三

(ロ) 扶養親族ノ申告

前號(ハ)ノ扶養親族ヲ有スル者ハ申告義務者ノ氏名、住(居)所、給與支拂者ノ氏名、住所、扶養親族ノ氏名、生年月日、申告者トノ續柄、不具癡疾ノ事由及ビソノ他參考トナルベキ事項ヲ記載シテ申告書ヲ毎年最初ニ給與ノ支拂ヲ受ケル日(年ノ中途ニテ新ニ給與所得ヲ有スルニ至ツタモノハソノ最初ニ給與ノ支拂ヲ受ケル日)ノ前日迄ニ給與ノ支拂者ヲ經由シテ納稅地ノ稅務署長ニ提出スルモノトスル。前項ノ申告書ヲ提出シテ者給與支拂者又ハ扶養親族ノ異動ガアルトキハ異動ガアツタ事項ソノ他必要ノ事項ヲ記載シテ申告書ヲ前項ニ準ジ提出スルモノトスル。

(註) 法第三十九條、規則第四十五條參照

五 税金ノ納付(源泉徴收)

給與所得又ハ退職所得ハソノ給與ノ支拂ヲナス際左ニヨリ稅額ヲ徴收シ納付書及ビ計算書ヲ添エ翌月ノ十日迄ニ國庫ニ納付スルモノトスル。

(イ) 給與所得

給與所得ハソノ給與金額並ビニ申告サレタ扶養親族ノ有無及ビソノ員數ニ應ジ第一表ニ掲グル稅額... (ロ) 退職所得ニツイテハソノ十分ノ一(但シ退職所得ノ金額二萬圓未滿ノ場合ニ限ル)ニ相當スル金額... 新ニ採用又ハ退職等ノ爲給與ノ日割計算ヲ爲ス場合ニオイテ

0553

ハソノ給與ノ支拂ヲ爲ス際ノ日額ノ給與金額ニ應ジテ第二表ノソノ日ノ給與ノ金額ノ欄ニ該當スル行ヲ求メ、ソノ行ト扶養親族ノ數ニ應ジテ求メタ當該欄トノ交ルトコロニ記載シアル稅額ニ相當スル額ニソノ月支給スベキ俸給又ハ給料ノ日數ヲ乘ジテ得ク金額ニ相當スル金額ヲ稅額トシテ控除スル。轉勤又ハ轉官ノ場合ハソノ際支給スル給與ニツイテ前項ニ準ジ稅額ヲ徵收シ又ハ稅額ヲ未控除(退職所得ヲ除ク)ノママ新勤務廳ニ通牒シテ控除ヲ依託スルコトガデキル。前項ノ通牒ニハ未控除ノ給與種別、給與期間ソノ金額ヲ記載スルモノトスル。

同一月ニ二回以上ノ給與ヲ支拂ヲ爲ス場合ノ第二回以後控除スベキ稅額ハ最初ノ給與金額ニ課スベキ稅額ト最初ノ給與金額ニ第二回以後給與スル給與金額ヲ加エタ合計金額ニ課スル稅額トノ差ニ相當スル金額(即チソノ月ノ給與ニ對シ既ニ納付シタ稅額ヲ控除シタ金額)ヲ稅額トシテ控除スル。

(註) 法第三十八條、規則第四十條參照

第一表及ビ第二表ニヨリ稅額ヲ徵收スル場合ハ該表稅額ハ既ニ第三號(イ)及ビ(ハ)ノ控除ヲナシアルニツキ同號ハ適用セザルモノトスル。

六 税金ノ拂戻及ビ追徴

給與所得者ノ所得金額ガ年額五萬圓以下デアル場合ニオイテ前號(イ)ニヨリ徵收スル所得稅額ノソノ年中ノ合計額ガ當該所得ニツイテ第三表ノ稅額ニ比較シテ過不足アルトキハ過納額

ハソノ年最後ニ於テハソノ翌年ニオイテ給與ノ支拂ヲ爲ス際徵收スル所得稅額ニ充當シ(徵收スベキ稅額ガナイトキハコレヲ還付スル)又不足額ハソノ年最後ニ又ハソノ翌年ニオイテ給與ノ支拂ヲナス際順次ニコレヲ徵收スルモノトスル。

(註) 法第四十條參照

所得金額ノ年額五萬圓以下ノ場合トハソノ年中ノ收入金額カラソノ十分ノ二ニ相當スル金額(ソノ金額ガ六千圓ヲ超エルトキハ六千圓)及ビ四千八百圓ヲ控除シタ金額ガ五萬圓以下デアル場合トスル。

七 稅票及ビ源泉徵收票

(イ) 稅票

給與ノ支拂ヲナス者ハ前號ノ所得稅額ノ算出ヲ容易ニ且ツ徵稅ノ基礎ヲ明確ニスル爲ニ各人別ニ稅票(別紙様式)ヲ作成スルモノトス。

(ロ) 源泉徵收票

給與支拂者ハ源泉徵收票二通ヲ作成シ給與ノ支拂ヲナシタ年ノ翌年一月二十五日迄(年ノ中途ニオイテ退職ガアツトキハ退職後一月以内)一通ヲ所轄稅務署ニ提出シ他ノ一通ヲ給與ノ支拂ヲ受ケル者ニ交付スルモノトス。

(註) 法第六十二條

源泉徵收票ハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケコレガ提出及ビ交付シナイコトガデキル。本徵收票ノ省略標準ハ大藏省ニテ研究中デアルカラ

決定次第通知スル。

八 諸様式

(イ) 納付書 (所得税法施行細則第一號書式)

(ロ) 徵收高計算書 (同 第二號書式)

(ハ) 源泉徵收票 (同 第三號書式)

(別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付スル)

○ 雜 款

○ 正誤

五月五日附復員廳第二復員局公報通牒欄「二復第一五三號」ハ

「二復總第一五三號」ノ誤

0555

復員廳第二復員局公報

第一二一號

昭和二十二年五月十五日(木)
第二復員局文書課

○ 令 達

復二第三五二號

第二復員部内暫定加給支給規則中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十四日

復員廳 總裁

第七條 削除

第三條中「俸給給料加給額」ヲ「暫定加給ノ月額」ニ改メル。

第三條ノ二 内地ニ在ル第二復員部内職員ニシテ現ニ受ケテイ

ル俸給又ハ給料ト暫定加給トノ合計額ガ別表第五ニ於ケルソ

ノ者ノ年齢ニ對應スル金額ニ滿タナイトキハソノ差額ニ相當

スル金額ヲ暫定加給ヲ増額スル。

第四條 削除

第五條 削除

第八條ノ二 第三條ノ二ノ規定ニ依リ増額スル金額ノ支給區分

ハ左ノ各號ニヨル。

(一) 四月一日カラ六月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイ

テハ七月分カラ支給スル。

(二) 七月一日カラ九月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイ

テハ十月分カラ支給スル。

復員廳第二復員局公報 第一二一號 昭和二十二年五月十五日

- (三) 十月一日カラ十二月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイテハ一月分カラ支給スル。
 - (四) 一月一日カラ三月末日マデノ間ニ滿年ニ達シタ者ニツイテハ四月分カラ支給スル。
- 別表第一中「俸給、報酬加給額」、別表第二及ビ第三中「給料加給額」並ビニ別表第四中「俸給給料加給額」ヲ「暫定加給額」ニ改メル。

附 則

本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。

昭和二十二年四月一日ニ於テ別表第五ノ滿年ニ達シタ者ニ付テ

ハ第八條ノ二ノ規定ニ拘ラズ昭和二十二年四月分ヨリ第三條ノ

二ノ規定ニ依リ暫定加給ヲ増額スル。

(別表添)

復二第三五三號

第二復員部内臨時家族手當支給規則中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十四日

復員廳 總裁

第二條 手當ハ扶養家族一人ニツキ左ノ區分ニヨリコレヲ支給スル。

22.5

11.2

一 内地ニ於テ各廳ニ勤務スル者ニハ一率ニ百五十圓
 二 外地又ハ外國ニ在ル者ニシテ内地ニ扶養家族ヲ殘置スル

モノ(兵ヲ除ク)

(イ) 別表特別地域ヲ俵給又ハ給料ノ家族渡ヲ受クル家族
 (以下本條ニ於テ當該家族ト稱ス)ノ居住地トスル者

(ロ) 別表甲地域ヲ當該家族ノ居住地トスル者 一月 百九十五圓

(ハ) 別表乙地域ヲ當該家族ノ居住地トスル者 一月 百八十圓

(ニ) 別表丙地域ヲ當該家族ノ居住地トスル者 一月 百六十五圓

別表甲地域欄中「六大都市」ヲ「六大都市ノ一部」ニ改メ「東
 京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、神戸市」ヲ削リ甲地
 域欄中ニ次ノ特別地域欄ヲ加ヘル。

特別地域	六大都市ノ一部	コレニ準ズル地域
東京都ノ區ノ存スル區域		
京都市		
大阪市		
神戸市		

附則

本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。

復二第三五四號

第二復員部内臨時勤務地手當支給規則中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十四日

復員廳總裁

第一條中「東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、横濱市、
 神戸市、名古屋市、横須賀市、福岡市及ビ門司市ニアル第二復
 員部内各廳ニ勤務スル者ニハ」ヲ「第二條ノ規定ニ該當スル地
 域ヲ勤務地トスル者ニハ」ニ改メル。

第二條 手當ハ俵給又ハ給料、暫定加給及ビ臨時家族手當ノ合
 計額ヲ左ノ區分ニヨリコレヲ支給スル。

(イ) 東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市及ビ神戸市ノ
 勤務地トスル者 三割

(ロ) 横濱市、名古屋市、横須賀市、福岡市及ビ門司市ヲ勤務
 地トスル者 二割

(ハ) 前各號以外ノ市ヲ勤務地トスル者 一割

附則 本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。

○通 釋

二復經主第二號ノ三九

昭和二十二年五月十日

復員廳第二復員局經理部長

3570

0557

關係各廳長殿

俘虜ノ携帶スル「デイリ、ウオーク、レコ

ード」ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ大藏省理財局長ヨリ別紙ノ通り通知ガアツタカラ、了知ノ上元海軍軍人軍屬關係ノ當該「レコード」ニツイテハ當部ヲ經由シテ大藏省ニ送付ノコトニ取計ワレタイ。

(別紙)

藏理外第九四五號

昭和二十二年四月二十五日

大藏省理財局長

第二復員局經理部長殿

俘虜ノ携帶スル「デイリ、ウオーク、レコ

ード」ニツイテ

聯合國最高司令部カラ日本ノ歸還俘虜ガ携行スル「デイリ、ウオーク、レコード」ハ現地米軍ガ俘虜ニ對シテ、ソノ期間中ノ所得計算ノ基本トシテ發行シタモノデアツテ、其ノ所得ハ既ニ現地ニオイテ支拂濟デアルカラ右「レコード」ハコレヲ引上ガ連合國最高司令部ニ引渡サレタイトノ注意ガアツタ、ツイテハ貴局關係ノ歸還俘虜デアツテ右ノ「レコード」ヲ携帶スルモノガアツタラ之ヲ引上ガ當局マデ送付サレタイ。

右通知スル。

二復經主第二號ノ四〇

昭和二十二年五月十四日

復員廳第二復員局公報 第一一一號

昭和二十二年五月十五日

關係各廳長殿

復員廳第二復員局經理部長

「國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂規則」中一部改正ノ件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り四月三十日大藏省令第四十二號ガ公布サレタカラ承知サレタイ。

追ツテ退職手當、死亡賜金、掃海作業勤務者死傷手當、掃海慰勞金及ビ雇員扶助令又ハ傭人扶助令ニヨル扶助金ハコノ省令第一條第一項第一號ノ二ニ規定サレテイル退職ノ際支拂ヲ受ケル臨時的給與トシテ取扱ワレタイ。

(昭和二十二年三月十七日第二復員省公報第五九號參照)

(別紙)

大藏省令第四十三號

國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂規則ノ一部ヲ次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年四月三十日

大藏大臣 石橋湛山

第一條第一項第一號中「當該月ニ於テ七百圓(分類所得稅額、恩給法國庫納金額、健康保險保險料額、厚生年金保險保險料額及共済組合掛金額ヲ含マズ)ヲ超ユル定期的給與ヲ受ケル者ニ付テハ七百圓迄ニ限ル」ヲ削リ、同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加エル。

一ノ二 慰勞金、退職金其ノ他ノ臨時的給與ニシテ退職ノ際

一一三

0558

支拂ヲ受クルモノノ中退職者ノ退職時ニ於ケル俸給、給料、手當共ノ他之ニ準ズル定期的給與（賞與共ノ他當該月ニ於テ特ニ一時的ニ支拂ハルモノヲ除ク）ノ合計額ノ三分分ニ相當スル金額ノ支拂ノ爲之ニ要スル金額

附 則

コノ省令ハ昭和二十二年五月一日カラコレヲ施行スル。コノ省令施行ノ日以後ニオイテ俸給、給料、手當、賞與ソノ他ノ定期的給與デ昭和二十二年四月分以前ノモノヲ支拂ウトキハ改正前ノ第一條第一項第一號及ビ第二條ノ規定ニヨル。

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

試航船 榮 昌 丸 岡山縣玉野郵便局氣付
同 わかくさ丸 岡山縣玉野市三井造船所氣付

○ 事務所

四月二十八日閉鎖 特別輸送艦朝風丸殘務整理班
自今連絡ハ吳郵便局氣付 特別保管艦宵月主計長宛

8280

0559

(別表第五)

(昭和二十二年五月十五日復員廳第二復員局公報)

暫定加給ノ増額

一三歳	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二
四〇〇 ^円	四四〇	四七〇	五〇〇	五三〇	五六〇	五八〇	五九〇	六一〇	六三〇
一三・三〇 ^円	一四・七〇	一五・七〇	一六・七〇	一七・七〇	一八・七〇	一九・三〇	一九・七〇	二〇・三〇	二一・〇〇
二三歳	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二
六四〇 ^円	六六〇	六七〇	六九〇	七〇〇	七二〇	七四〇	七六〇	七八〇	八一〇
二一・三〇 ^円	二二・〇〇	二二・三〇	二三・〇〇	二三・三〇	二四・〇〇	二四・七〇	二五・三〇	二六・〇〇	二七・〇〇
三三歳	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二
八四〇 ^円	八七〇	九〇〇	九二〇	九四〇	九六〇	九八〇	一、〇〇〇		
二八・〇〇 ^円	二九・〇〇	三〇・〇〇	三〇・七〇	三一・三〇	三一・〇〇	三一・七〇	三二・三〇		

備考 年齢入満年ヲ示ス。

復員廳第二復員局公報

第一二二號

昭和二十二年五月十六日(金)

第二復員局文書課

○令 達

復二第三五五號

復員廳分課規程別紙第二中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十五日

復員廳總裁

第五條第一項中「、醫務課」ヲ削リ「、扶助課及ビ業績課」ヲ

「及ビ扶助課」ニ、「會計課及ビ契約課」ヲ「及ビ會計課」ニ改メル。

第三條中第四號ヲ第五號トシ第三號ノ次ニ次ノ二號ヲ加エル。

四 醫務ニ關スル事項

第七條 削除

第九條中第二號ヲ第三號トシ第一號ノ次ニ次ノ一號ヲ加エル。

二 戦歿者ノ諸調査ニ關スル事項

第十二條 削除

第十三條中第三號ヲ第四號トシ第二號ノ次ニ次ノ一號ヲ加エル。

三 寶買、貸借、請負ソノ他ノ契約ニ關スル事項

第十四條 削除

(參照 昭和二十一年六月二十日第二復員局公報)

北松

復員廳第二復員局公報 第一二二號 昭和二十二年五月十六日

復二第三五六號

復員廳第二復員局及ビ地方復員局ノ定員ヲ各々別表ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年五月十五日

復員廳總裁

(別表添)

復二第三五七號

昭和二十一年復二第三〇八號(横須賀管船部ニ人員臨時増置ノ件)及ビ同年復二第五二五號(第二復員局總務部掃海課ノ人員臨時減員ノ件)ハコレヲ廢止スル。

昭和二十二年五月十五日

復員廳總裁

(參照 昭和二十一年十月十日、同二十二年一月十日第二復員局公報)

○通 牒

二復員主第七號ノ二三二

昭和二十二年五月十五日

復員廳第二復員局經理部長

0561

關係各職長殿

電信員ノ勞務手當ニ關スル件通牒一

第二復員部内職員給與規則第八條適用上電信員中當直勤務ニ服スル一級無線通信士及ビ二級無線通信士ハ高等科特技章ヲ、三級無線通信士、飛行豫科(通信専修)出身者及ビコレト同程度以上ノ通信術得修者(有線通信士ヲ含ム)ハ普通科特技章ヲ夫ニ附與セラレタル者ト看做スコトニ定メラレダカラ通知スル。

0562

復員廳第二復員局公報

第一一三號

昭和二十二年五月二十二日(木)
第二復員局文書課

○令 達

燃務主

復二第三二七號
海軍編制ヲ廢止シ、同編制ニ編入ノ艦船、ソノ他ノ艦船ヲ全部
除籍スル。

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁

復二第三三八號
驅逐隊編制ヲ廢止スル。

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁

復二第三六五號
左ノ内令ハコレヲ廢止スル。

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁

特設艦艇部除令
特設海軍航跡部令
特設海軍艦理部令
特設海軍施設部令

特設海軍軍需部令
特設海軍工作部令
特設海軍建設部令
特設海軍航空廠令
特設海軍燃料廠令
特設海軍衣糧廠令
特設海軍病院令
特設海軍航空輸送廠令
特設海軍氣象部令
特設海軍補充部令
特設海軍運輸本部令
特設海軍運輸部令
特設船舶警戒部令
特設船舶救難本部令
海軍航空要員研究所令
海軍特兵部令
海軍化兵戰部令
海軍武官支那及南方地方在勤令
海軍特別陸戰隊令
海軍特別根據地隊令

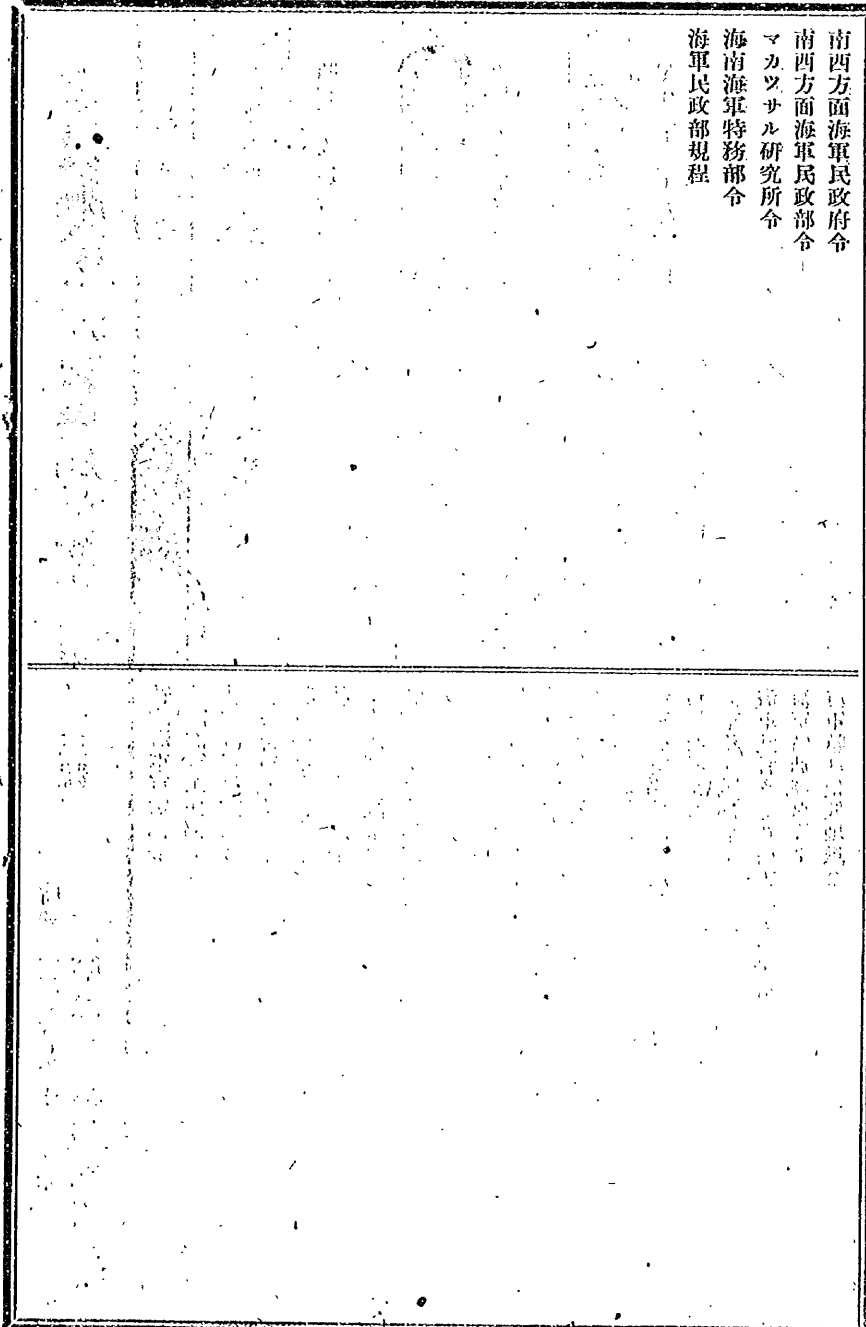
復員廳第二復員局公報 第一一三號

昭和二十二年五月二十二日

一九

0565

南西方面海軍民政部令
南西方面海軍民政部令
マカツサル研究所令
海南海軍特務部令
海軍民政部規程



2020

0566

復員廳第二復員局公報

第一二四號

昭和二十二年五月二十六日(月)
第二復員局文書課

○令 達

復二第三七四號

四月一日復二第二四五號本年度歳出科目ニ左ノ通り追加サレ
夕。

昭和二十二年五月二日

復員廳總裁

項	額	備考
(旅費共運賃)		
(旅費支用金)		
(旅費支用金)		
行政事務ノ勤務地手続費等ニ不 足ラシタル場合支任整理ヲナ スモノ		

復二第三七五號
當分ノ間第二復員部内職員公務ニ依リ内地ヲ旅行スルトキ支給
スベキ船賃及ビ車馬賃ハ海軍内國旅費規則第三表ノ規定ニ拘ラ
ズ別表ニヨル。

復員廳第二復員局公報 第一二四號 昭和二十二年五月二十六日

本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ適用スル。
昭和二十二年五月二十三日

復員廳總裁

(別表)

第三表 船賃及ビ車馬賃

旅費等級	親任官	一級官吏 同等過者	二級官吏 同等過者	三級官吏 同等過者	雇員	傭人
船一 一 一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
船一 一 一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
車馬賃 一 一	八〇	七〇	六〇	五〇	五〇	五〇

備考
一 本表定額ヲ以テ實費ヲ支辨シ難キトキハ其ノ實費
ヲ支給スルコトガデキル。
二 一籽ノ計算ハ一哩ハ一・六籽、一哩ハ一・八五籽、一
里ハ四籽ト看做シコレヲ計算スル。

○通 牒

二復人第四號ノ七八

昭和二十二年五月三日

復員廳第二復員局人事部長

各廳長 殿

一一九

0567

今後復員廳第二復員局内職員辭令形式ハ左記要領ニヨリ實施スルコトニナツタカラ承知サレタイ。

道ツテ便宜上電報符號使用ハ從來通りデアル。

記

一 補職命課

復員廳第二復員局〇〇部長復員事務官 何 某

〇〇地方復員局長ニ補スル

〇〇管船部勤務復員事務官 何 某

海第〇〇號艦長ヲ命ズル

〇〇地方復員局〇〇部勤務復員事務官 何 某

〇〇地方復員局〇〇部勤務ヲ命ズル

〇〇地方復員局〇〇部勤務ヲ命ズル 復員事務官 何 某

〇〇地方復員局〇〇部勤務復員事務官 何 某

海第〇〇號乘組ヲ命ズル

〇〇號航海長復員事務官 何 某

兼ネテ海第〇〇號航海長ヲ命ズル

二 任免、敘級ソノ他

復員事務官ニ任命スル 何 某

二級ニ敘スル

復員事務官 何 某

何號俸ヲ給スル

復員事務官 何 某

二級ニ陞叙スル

復員事務官ニ任命スル

三級ニ敘スル

何號俸ヲ給スル

願ニ依リ本官ヲ免ズル

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官兼復員事務官 何 某

兼復員事務官ヲ免ズル

三 定員上定メラレテイルモノノ外從來附ヲ命ゼラレテイタモノハ別ニ辭令ヲ用イナイデ勤務ヲ命ゼラレタモノトスル。

二 復員主第二號ノ四一

昭和二十二年五月十九日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿

四 個國引渡艦ノ引渡ニ伴フ收納支拂事務掌理

ニ關スル件通牒

首題ソ件ニ關シ左記ノ通り定メラレタカラ了知アリタイ。

記

一 四個國引渡艦ノ乗員收容ノタメコレト同行スル艦船ノ主計

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

〇〇事務官 何 某

長ヲ出納官吏トシ、同艦船固有ノ收納支拂事務ノ外、四個國引渡艦回航中ノ不時ノ物件の經費ヲ支拂ヲ掌理セシメル。
二 地方復員局經理部長ハ復員廳第二復員局茂入茂出事務取扱要領第三條ノ規定ニ拘ワラズ當該地方復員局所屬管船部ニ置カレテキル出納官吏ヲシテ四個國引渡艦ノ收納支拂事務(前號ニ掲ゲル不時ノ物件の經費ノ支拂ヲ除ク)ヲ掌理セシメルコトガデキル。

二復經主第二號ノ四二

昭和二十二年五月十九日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿

四個國引渡艦ノ引渡ニ伴フ收納支拂事務掌理

ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ今般二復經主第二號ノ四一ヲ以テソノ掌理區分ニツキ通牒セラレタガ、ソノ事務掌理ハ左記要領ニヨラレタ
イ。

記

一 四個國引渡艦ニ指定セラレタ艦船(以下引渡艦ト稱スル)ノ收納支拂事務ハ所管地方復員局經理部又ハ同地方復員局所屬管船部(以下所管經理部又ハ所管管船部ト稱スル)ニオイテコレヲ掌理スルモノトシ、ソノ事務掌理ヲ他ノ各部ヨリソノ所管經理部又ハ所管管船部ニ移牒スベキ場合ハソノ出納官

吏ト分雖行動スル時期ニオイテ、コレヲ移牒スルモノトスル。但シ引渡艦回航中ノ不時ノ物件の經費ノ支拂ニツイテハ同艦乘員收容ノタメコレト同行スル艦船(以下歸還艦ト稱スル)ノ主計長ガコレヲ掌理スルモノトスル。

二 引渡艦乘員ハ最初ノ引渡完了ノ時期ニオイテ所管管船部附トセラレ、事後ソノ身分ノ儘歸還艦又ハ次ニ配乗セラレル引渡艦ノ臨時乘組ヲ命ゼラレル見込アルガ、コレニ對スル諸給與(航海日當、旅費等ヲ含ム)ノ支拂ハ引續イテ所管經理部又ハ所管管船部ニオイテコレヲ掌理スルモノトスル。

三 引渡艦ノ引渡ニ從事スル艦船乘員(歸還艦乘員ヲ含ム)ニ對シテハ俸給又ハ給料、暫定加給、家族手當及ビ勤務地手當ノ三分分(ソノ月分ヲ含ム)以内ノ前金拂スルコトガデキル。但シ第一號ノ規定ニヨリ給與掌理ヲ所管經理部又ハ所管管船部ニ移牒スル場合ハ從前ノ出納官吏ガ右ノ前金拂シシタ上ノ給與掌理ヲ移牒スルモノトスル。

四 引渡艦長又ハ歸還艦長ハソノ乘員又ハ便乗者ノ諸給與ノ支拂等ニ關係アル事項ヲ速カニソノ事務掌理者ニ通知シタケレバナラナイ。

五 各出納官吏ハ引渡艦ノ引渡ノタメ特ニ要シタ經費(引渡艦及ビ歸還艦ノ回航ノタメ特ニ要シタ燃料費、消耗器材費、被服費、食糧費、修繕料、船舶用需品費、雜費)ニツキ、毎月ソノ科目別支出金額ヲ第二復員局經理部長ニ通知シタケレバナラナイ。

復員廳第二復員局公報 第一一四號

昭和二十二年五月二十六日

一一一

0569

六、保管艦ノ收納支拂事務ハ、既ニ所管經理部又ハ所管艦船部ニオイテ掌理セル場合ノ外、引渡艦引渡ノ進捗ニ伴ウ掌理艦船ノ縮減ニ應ジ適當ノ時期ヨリ所管經理部又ハ所管艦船部ニオイテコレヲ統合掌理スルヨウ措置スルモノトスル。

○ 難 款

○ 轉官	昭和三十二年	臺中州警部ニ轉官	海軍警部	水野 友一
昭和三十二年	四月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍書記	村里久磨治
同	四月十五日	臺灣總督府地方技師ニ轉官	海軍技師	長谷川 正
同	同	同	同	角田勝治郎
同	同	臺北州警部ニ轉官	海軍警部	吉良 留雄
同	同	臺灣總督府技師ニ轉官	海軍技師	日雨孫 勉
同	五月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍書記	山本 利勝
同	同	同	同	尼崎 義雄
同	五月二十三日	農林技官ニ轉官	海軍技師	永田 正
同	五月二十四日	大藏技官兼大藏事務官ニ轉官	同	岡村 誠
同	六月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍司政官	山田 忠
同	同	選信事務官ニ轉官	同	大谷 武男
同	同	同	海軍警部	高野 昇
同	同	大藏事務官ニ轉官	海軍司政官	小出 友一

同	七月十五日	關東種畜場技師ニ轉官	海軍技師	石山 顯義
同	同	朝鮮總督府技師ニ轉官	同	小林 勝壯
同	同	臺灣總督府理事官ニ轉官	海軍司政官	森井 泰博
同	同	大藏事務官ニ轉官	海軍書記	仁尾 清利
同	同	選信事務官ニ轉官	海軍司政官	村上 治雄
同	八月十五日	地方技官ニ轉官	同	辻 三郎
同	九月十五日	地方事務官ニ轉官	同	片岡榮三郎
同	昭和三十二年	高尾州警部ニ轉官	海軍警部	渡邊庄九郎
同	昭和三十二年	選信事務官ニ轉官	海軍書記	大橋 敏昌
同	同	地方技官ニ轉官	海軍技師	中村三四郎
同	二月三日	高尾州屬ニ轉官	海軍書記	塩見 一夫

復員廳第二復員局公報

第二一五號

昭和二十二年五月二十九日(木)
第二復員局文書課

○令 達

復二第三八一號

新基本給決定準備委員會規程ヲ次ノヨウニ定メル。

昭和二十二年五月二十三日

復員廳 總裁

新基本給決定準備委員會規程

第一條 新基本給決定準備ノタメ第二復員局ニ新基本給決定準備委員會ヲ設置スル。

第二條 委員會ハ委員長一人及ビ委員十六人ヲ組織スル。

第三條 委員會ニ幹事三人ヲ置キ委員ノ中ヨリコレヲ命ズル。

幹事ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理スル。

第四條 委員長ハ新基本給決定ノ準備ヲ完了シタトキハコレヲ第二復員局長ニ報告スルモノトスル。

復二第三八三號

元海軍省所管特別會計ノ終結ヲ爲スクタメ左ノ通り三月三十一日附歳入科目ガ追加設置セラレタ。

昭和二十二年五月二十八日

復員廳 總裁

昭和二十一年度大藏省主管一般會計歳入臨時部

復員廳第二復員局公報 第二一五號 昭和二十二年五月二十九日

一一三

款ノ	項	目	解	疏
臨時雜入	特別會計 ヨリ受入			

海軍工廠資金特別會計殘金受入	海軍工廠資金支拂元受金			
海軍火藥廠特別會計殘金受入	海軍火藥廠支拂元受金			
海軍燃料廠特別會計殘金受入	海軍燃料廠支拂元受金			

○通 牒

復二第三八〇號

昭和二十二年五月二十六日

復員廳第二復員局文書課長

關係各廳長殿

舊海軍艦船ニオイテ常時勤務スル者ニ對スル諸給與等ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シテ次ノヨウニ發電サレタカラ了知サレタイ。

第一一番電 (昭和二十二年五月十九日發電濟)

發 第二復員局長

宛 各地方復員局長

舊海軍艦船ニオイテ常時勤務スル者ニ對スル
諸給與等ニ關スル件

舊海軍艦船タル大泊、汐風、椿、三宅、竹ニオイテ常時勤務シ且常時居住宿泊スル者ニ對シテハソノ紀律、服務、諸給與、食糧ノ支給、被服ノ貸與及ビ酒保物品ノ配給等ニ就キ艦船乗員ニ準ジコレヲ取扱フコトニ定メラレタ。

○ 雜 款

○ 辭 令

復員事務官 川井 巖
新基本給決定準備委員會委員長ヲ命ズル

復員事務官	長澤 浩
幹事	庵原 貢
同	關口 鑛造
同	清水 秀政
同	相良 辰雄
同	吉村 秀夫
同	奥 三二
同	茶谷 東海
同	山内 仲穂
同	福田 春秋
同	野澤 顯治
通各	
幹事	

新基本給決定準備委員會委員長ヲ命ズル(昭和二十二年五月二十三日復員局第二復員局長)

同	高橋 義雄
同	穂田 光亮
同	横溝 幸四郎
同	大石 宗次
同	中山 時宗

1780

0572